

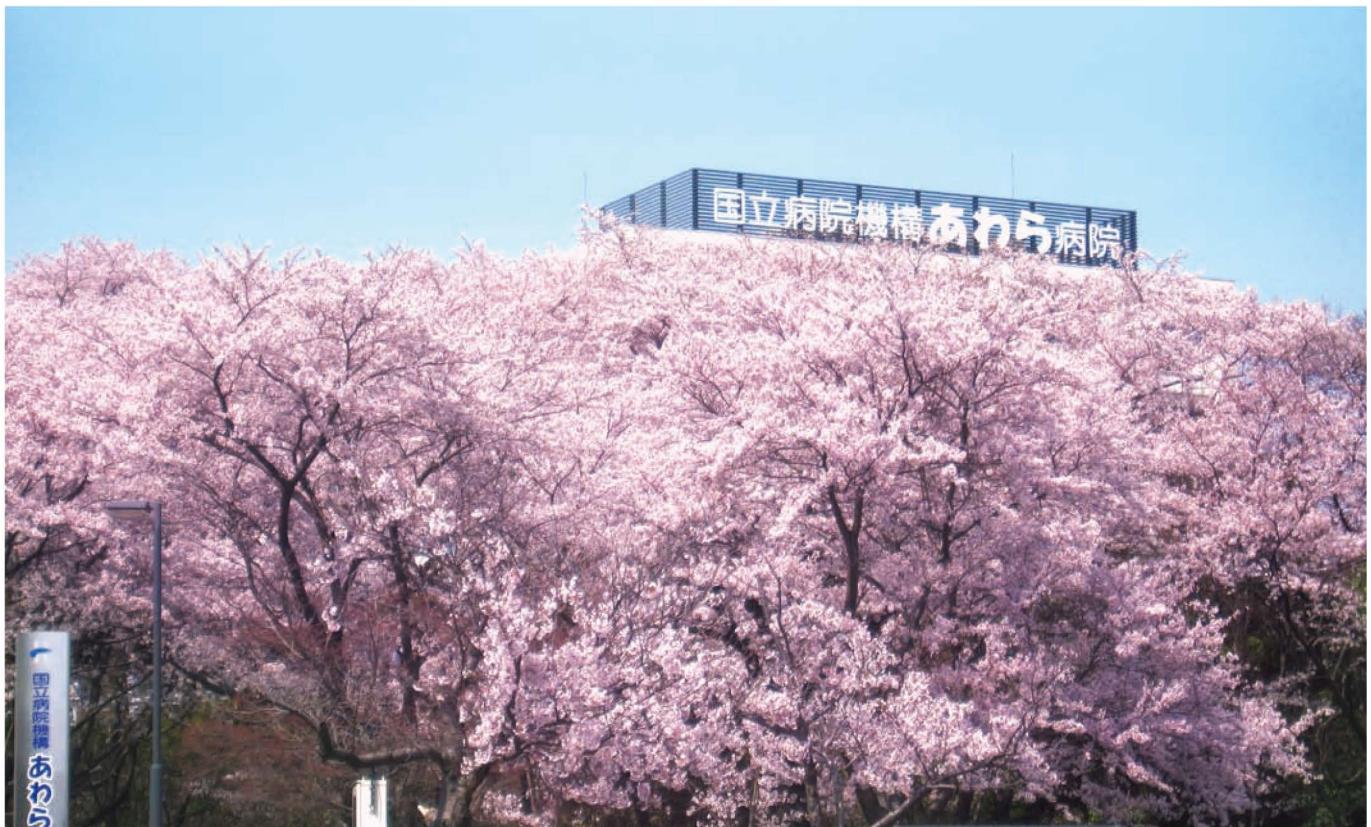
# Awara News

あわらニュース vol.66

平成29年4月3日発行

## 「多くの人の笑顔のために」

- 重症心身障がい、難病、長寿医療を柱とし、地域に密着した専門医療を提供します。
- 社会的なアプローチを組み入れ、患者中心の心あたたまる医療を実施します。
- 臨床研究、教育研修、安全管理をとおして、常により質の高い医療を追求します。
- 公益性を確保し、効率的で自立した病院経営を推進します。



## 多くの人の笑顔のために

サービス・広報委員会 大坂 陽子

季節が変わるのは早いもので、何時の間にやら春を迎え、そして平成29年度になりました。今年も、年が変わってから今までに、障がい者病棟や在宅支援事業所あおばでの成人式や卒業式、入学式といった節目の行事があり、私も式に出席してお祝いし、若い皆さんの成長を感じる喜びを通して、幸せを分けてもらいました。

あわら病院は、障がい児(者)、血液・免疫疾患、長寿の分野を専門とし、日々、技術や知識の研鑽に努め、高品質で安全な医療を提供する使命を持っております。良質な医療を実践して、患者さんの生活の質を高めるお役に立ちたいと思っています。たとえば障がい者病棟の患者さんの日々の生活で楽しみを見つけるお手伝いが出来るように。たとえば、慢性疾患の患者さんが不安のない社会生活を送れるように。たとえば、高齢の患者さんが在宅で安心して過ごせるように。あわら病院の多職種のチームや、訪問診療、訪問看護、地域の医療施設との連携を通してともに歩んでいきます。

## 平成29年度を迎えて

春の陽気とともに新しい年度がスタートしました。あわら病院でも多くのフレッシュな人材を迎え、また新たな気持ちで日々の勤務に励んでいるところです。本年度も「多くの笑顔のために」、職員一人ひとりの、そしてチームの力を信じて、よりよい医療サービスを提供していきたいと考えていますのでよろしくお願ひいたします。

さて、現在、我が国では、「2025年問題」、すなわち団塊の世代が75歳を超えることにより国民の2割が75歳以上という超高齢社会を迎える問題に対して、新たな地域の医療構想が計画され最大の転換点を迎えようとしています。当院では高齢化が先行する過疎地域にあるためか、2013年頃には2025年問題を意識し、以来、住み慣れた地域で最期まで暮らしていくように「在宅医療の充実」を目標に掲げ活動しています。訪問看護ステーションの設立、介護医療情報システムの利用による医師、看護師、管理栄養士、多職種の参加など、当院が専門とする重症心身障がい、長寿、難病（神経、血液、リウマチ）の各医療分野



において、地域に密着した医療を追及してきました。さらに、昨年度からは「Hospital in the home, Home in the hospital」という概念のもと、在宅医療が入院医療のレベルになるように、入院生活が在宅生活のレベルになるように、入院・外来・在宅の体制を整備しています。病院の機能を最大限に生かし、ようやく自分たちの特色を生かしつつ新しい時代に対応した医療の提供ができるようになってきたと感じるところです。

近未来に待ち受けるのは決して小さい変化ではありませんが、私たちは常に専門医療、教育、そして研究をしっかりと担えるよう常に汗を流す覚悟であり、重症心身障がい児(者)医療、難病(血液・免疫・神経)医療、長寿医療を柱とした専門医療の充実を通じ、若い人たちとともにより一層、地域医療への貢献を果たしていきたいと考えております。



院長  
津谷 寛

## 重症心身障がい児(者)とてんかん

診療部長 川満 徹

重症心身障がい児(者)の障害の原因となっているものは多岐に渡りますが、その原因に因らず、多くの患者さんたちに共通してみられる合併症が幾つかあります。

便秘症を始めとした消化器の問題であったり、呼吸の問題であったり、又筋・骨格系の問題であったりしますが、その中の一つに「てんかん」があります。

てんかんの診断は、臨床症状、脳波検査、除外診断などを骨格として成されますが、その中でも最も重要なのが臨床症状です。これが無いと幾ら脳波に異常が認められてもてんかんとは診断されません。しかし、この臨床症状の判断が非常に難しい場合があります。つまり今日の前で見ている症状がホントにてんかん発作なのか、それとも不随意運動やてんかん発作とは別の精神症状の一つなのか、など判断がつか

ない場合があったりするのです。

その際役立つのが発作時脳波やビデオー脳波同時記録です。発作様の症状が起きている最中を脳波と動画で同時記録できるので、大いに診断に役立つ結果となります。随分以前から、専門施設では当たり前に使用されているのですが、当院でもしばらく前にこの装置を導入しました。勿論これだけで全ての診断的問題が片付く訳ではありませんが、これまでの脳波のみの記録に比べて、数段優れた診断的価値のあるものに変わったと言ってもよい

かと思います。

てんかんの診断・治療についてご相談のある方は、ご遠慮無く当方までご連絡頂ければと思います。



# 地域医療連携施設のご紹介

あわら病院と連携している医療機関等をご紹介します

## 介護老人保健施設 東尋坊ひまわりの丘



### 医療法人 聖仁会 藤井医院／介護老人保健施設 東尋坊ひまわりの丘

〒913-0062

福井県坂井市三国町陣ヶ岡16-13-18

TEL(0776) 82-8500

FAX(0776) 82-8550

メール sun-hill@fj-g.jp

ホームページ <http://fj-g.jp/>

介護老人保健施設 東尋坊ひまわりの丘／定員80名

○通所リハビリテーション(介護予防)／定員40名

○短期入所療養介護(介護予防)

○居宅介護支援事業所

藤井医院

○訪問看護 ○訪問リハビリテーション

<関連施設> 社会福祉法人 双和会

春江町 特別養護老人ホーム「ガーデンハイツ春江」

地域密着型 介護老人福祉施設「プライムハイツ春江」

ケアハウス「スプリングヒルズ」／坂井市春江地域包括支援センター

軽費老人ホーム「東尋坊ハイツ」

介護付老人ホーム「東尋坊ロイヤルハイツ」／特定施設入居者生活介護

小規模デイサービス「あおぞら」／訪問介護ステーション「はっぴー」

## 脳波検査について

あわら病院では、小児科外来や障害者病床で、てんかんの診療を行っています。てんかん診療に於いて「脳波検査」は重要であり、脳炎や事故、慢性疾患等の意識障害、その他認知障害など様々な病態の評価にも使用されます。

検査では、頭皮に20個ほどの電極を付け、脳の活動により発生する微弱な電気活動を検出、記録します。

### <検査を受ける際の注意点>

- 検査には1時間ほどかかります。事前にトイレを済ませておいてください。
- 当日又は前日に洗髪をしてご来院ください。
- 覚醒時と睡眠時の脳波を記録します。検査で睡眠状態の脳波をとれるようにするため、前日は遅く就寝し当日は早めに起きるようにして下さい。

研究検査科 血液主任 榎本暢

●検査の前に、眠くなる薬を飲んでいただくことがあります。

検査の際は、次のような刺激をおこなう「賦活脳波」をとなります。

開閉眼：目を開けたり閉じたりします。

過呼吸：大きく息を吸ったり吐いたりします。

光刺激：目の前のランプが点滅します。

脳波検査では、機械から人に電気を流したり、痛みを感じたりすることはあります。安心して検査におこしください。



## 外来担当医表

(平成29年4月3日現在)

診療科		月	火	水	木	金
総合	内科	津谷 寛	鈴木 友輔	大槻 希美	見附 保彦	宮永 大
	小児科	大坂 陽子*	川満 徹*	大坂 陽子*	湯浅 光織*	川満 徹*
専門	リウマチ			津谷 寛	津谷 寛	
	血液・腫瘍			浦崎 芳正*	大槻 希美(第2・4)	
	痛風				津谷 寛*	
	生活習慣病			鈴木 友輔(第1・3)		
	老年			桐場 千代(第2・4・5)		棄田 敦
	神経			林 浩嗣(第1・3・5)		
	循環器	見附 保彦	見附 保彦			
	外科	齊藤 貢	齊藤 貢	齊藤 貢	齊藤 貢	齊藤 貢
	整形外科	奥 規博				
	眼科				吉岡 達也*	
	皮膚科		若原 真美			若原 真美
	地域ケア		桐場 千代			
	禁煙外来	見附 保彦	見附 保彦			

●受付時間8:30～11:30 ●黄色枠は予約制 ●\*印は午後診察 ●休診日／土・日・祝日・年末年始

※皮膚科の診察は、火曜日・金曜日の午前中(9:00～11:00)です。

※神経内科の診察は、第1・3・5水曜日(8:30～11:30)です。 ※専門内科の午後診察は、14:00～16:00です。

※禁煙外来の診察は、月曜日(8:30～11:30)・火曜日(10:00～12:30)です。

## 医療安全管理室便り「病院間における医療安全相互チェック」について

医療安全管理係長 壽司 英子

国立病院機構では、各病院の医療安全対策の現状について、病院間で意見交換及び評価を実施し、医療安全対策の標準化を推進するとともに、医療安全の質の向上を図ることを目的に、平成25年度より医療安全相互チェックを実施しています。具体的には3つの病院を1つのグループとして、お互いの病院を訪問し、医療安全の取組みを院内巡回形式により評価することで、医療安全対策における他施設の良い取り組みを吸収し、自施設の課題を明確化できるというものです。平成28年度、当院は2回目のチェックを受けました。他施設の医療安全に携わっている方々より、優れている点・改善を要す点をご助言頂きました。医療安全は、医療の質に関わる重要な課題です。医療安全管理体制の確立を図り安全な医療の遂行を徹底する事が重要であると考えています。新年度は、医療安全管理室の構成員が大幅に代わります。今後ともご指導よろしくお願ひ致します。



## 独立行政法人 国立病院機構 あわら病院

福井県あわら市北潟238-1 TEL.0776-79-1211(代表) FAX.0776-79-1249  
(地域医療連携室) TEL.0776-79-1212内線(785) FAX.0776-79-1261  
URL <http://www.awara-hosp.jp/>

【診療科】内科、小児科、外科、皮膚科、血液・腫瘍内科、リウマチ科、神経内科  
老年内科、循環器科、整形外科、眼科、リハビリテーション科

【病床数】172床

【教育】日本内科学会認定教育関連施設、日本血液学会、日本リウマチ学会認定施設

## 交通のご案内

えちぜん鉄道「あわら湯のまち」駅より(5km)

- ①京福バス(北潟花菖蒲園行き、あわら病院前下車)
- ②乗合タクシー(デマンド交通) [事前予約が必要]

JR北陸本線芦原温泉駅より(10km)

- ①京福バス(あわら湯の町駅で乗換)
- ②乗合タクシー(デマンド交通) [事前予約が必要]

※出発時間は、受付に備え付けの時刻表、またはホームページ(交通案内)をご覗ください。